東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第 2 回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

Ⅰ．企画の概要

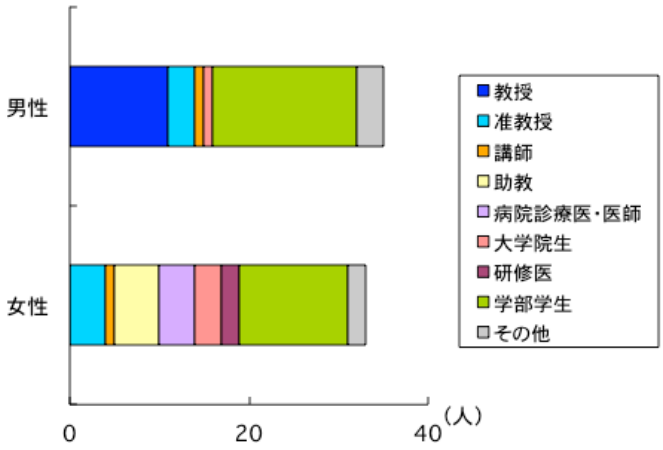
1. 目的：医学系研究科・医学部において、キャリア支援制度の紹介、ならびに、様々な医師・医学研究者が歩んできたキャリアの道、ライフイベントとの調和の事例の呈示や情報交換を行うことにより、
①若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2013 年 6 月 26 日（水）
第一部：16:40〜18:00
第二部：18:00〜19:00　（第一部、二部とも、途中入退場可）
3. 場所：東京大学医学図書館３階　333 会議室・310 会議室
4. 対象：医学科 M1〜M4 学生・医学部附属病院医師・医学系所属の大学院生や研究者（男女不問）
5. プログラム：
第一部　16:40〜18:00（333 会議室）　　司会　北中幸子・細谷紀子
ご挨拶（宮園浩平 医学系研究科・医学部長、佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）
イントロダクション（実行委員会幹事　細谷紀子）
現役医師・研究者の体験談とメッセージ
「医学キャリアとライフを切り開こう！」
・吉川 雅英（生体構造学）
・高梨 さやか（発達医科学）
・大河内 直子（輸血部／血液・腫瘍内科）
・市村 崇（人体病理学・病理診断学）
・鈴木 歩（臨床研修医（初期））
・野村 幸世（消化管外科）
全体討論
中締めのご挨拶（門脇孝 医学部附属病院長）
第二部　18:00〜19:00（310 会議室）
自由歓談・情報交換
6. 企画・運営：東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）
第 2 回医学系キャリア支援のための交流会　実行委員会
幹事：北中幸子、細谷紀子
委員：大友夏子、孫大輔、田村純人、野村幸世、松本陽子、渡部徹郎
委員： M4　井上 理美、目崎 可奈子
M3　佐藤 要、清水 啓介
M2　周 翰鵬、高岡 真梨子、西村 有未
M1　北島 奈美、水次 弘子

II. 開催報告

１．参加者数と属性（受付での記帳より）

職名（特任、客員を含む）	男性	女性
教授	11	0
准教授	3	4
講師	1	1
助教	0	5
病院診療医・医師	0	4
大学院生	1	3
研修医	0	2
学部学生	16	12
その他	3	2
計	35	33

（人）



２．当日配布資料

資料１　プログラム（ポスター）

資料２　医学系研究科・医学部附属病院における主なキャリア支援制度（育児・介護等）

資料３　アンケート調査用紙

３．会の概要

開会にあたり、宮園浩平医学系研究科・医学部長より、ご自身がスウェーデンへ留学した時のボスが夫婦で一日おきに交互に育児を分担しながら最先端の仕事をしていたエピソードや、スウェーデンで主宰した研究室のテクニシャンが出産後に合計 15 ヶ月の育児休暇を夫婦で分けて取得したエピソードが紹介され、「医学系キャリア支援のための交流会」で皆で議論をし、理解を深めて発展していくことはとても重要である旨の話があった。

続いて、主催側を代表して、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、同委員会が 2008 年に設立されたこと、そして、2009 年に本学部内で実施した男女共同参画アンケートにおいて、すべての構成員を一貫して受け入れる保育園の必要性、年度途中での 0 歳時の受け入れ体制の強化の必要性、女性専用の休憩室の必要性、保育時間の延長・夜間保育・病児保育などの柔軟な受け入れ体制の整備の必要性、キャリア支援の必要性、職場の理解の必要性などが挙げられ、本交流会は、その中の「キャリア支援の必要性」に応えるために開催している旨の説明があった。

次に、イントロダクションとして、本交流会実行委員会幹事の細谷紀子講師から、医師全体および東大医学科卒業生における女性の比率が上昇傾向にあること、様々なライフイベントとキャリアの両立は女性だけでなく男性にとっても重要である旨の話があった。医師・医学者として活躍するために必要な二つの軸として「ライフワーク（医学の中で、何をテーマにしていくのか？）」と「ワークライフバランス」の二つがあり、ワークとライフのそれぞれの質を高めることにより相乗効果をはかるという考え方が重要であることが述べられた。また、第一回交流会の講演・討論やアンケートの結果において、これらの軸を機能させるために必要なこととして、①本人の意識、②お互いの立場を思いやり、尊重し合う風土（職場、家庭）、③キャリア支援制度の充実、が挙げられた旨の説明があった。

講演（体験談）のコーナーでは、妊娠・出産・育児・看護（介護）などのライフイベントを経験し

ながら本学で仕事をしている 6 名の様々なキャリア段階の男女の医師・医学研究者より、自己の経験やそれに基づいたアドバイスなどが披露された。

一人目の演者の生体構造学の吉川雅英教授からは、現在の仕事の内容と、米国での独立（研究室主宰）を経て築いてきたこれまでのキャリアと家族背景の紹介がなされた後、アメリカと日本の子育てをめぐる環境の違いに関する話があった。とくに、医療を受ける立場から、日本では保険でのカバー率が高いうえ、アクセスしやすい手厚い診療体制が整っている一方で、アメリカではカバー率が低く、ときに治療費が莫大になってしまうことがある旨を述べられた。さらに、日本には優秀なドクターが多く、自らの体験談として、重い病気を患った長女の闘病過程で出会ったドクターの「患者の治療というものを考えるときに、家族も含めてトータルで幸せの量が増えるように考えている。それは定量的には測れないけれども、患者さんによって異なる。」との言葉に心を動かされたエピソードが紹介された。他にも、次女の保育園探し、妻の医師としてのキャリア、研究費の獲得など、現在進行形で様々な問題を乗り越えながら仕事をしている旨の話があった。

二人目の演者の発達医科学の高梨さやか助教からは「MAMA が研究留学をして考えたこと」というタイトルで話があった。小児科医として研鑽を積む中で感染症分野に興味を持ち、大学院を経てオハイオ州立大学へ研究留学をしたこと、また、留学の時期が夫の日本での仕事を軌道に乗せる大切な時期と重なり、夫の理解もあり、当時 1 歳であった子供を連れて母子 2 人でアメリカに渡ることを決意した旨の説明があった。米国留学中は、ノロウイルス細胞の培養系確立の研究に携わり、デイケアセンター（保育園）、ベビーシッター、jiji（じいじ＝祖父）という現地での 3 つの子育てサポーターに加え、日本にいる夫もスカイプでの会話を通じて支えてくれたことが紹介された。また、日米での両立支援における最も大きな違いとして、米国では男女を問わず仕事以外の生活の充実が仕事にも好循環をもたらすという共通意識があるなどソフト面での充実が見られること、また、米国の方が日本に比べて職場全体の決定権をもつ女性が多数であることが挙げられた。

三人目の演者の輸血部の大河内直子助教からは、「女医の一症例」というタイトルで話があった。大学卒業時以降、様々な節目においてキャリアに影響を与えたメンターがいたこと、血液内科での臨床を経て、大学院入学以降は、白血病モデルマウスの研究に従事してきたことが紹介された。子育てと仕事の日常で工夫している点としては、夕食は家族そろって食べること、当直・土日勤務・外勤なしで、デスクワークは極力家でやるようにしていること、保育園の利用、家の掃除の外注、職住接近、学会時の両親のサポートなどが挙げられた。出産時に日本学術振興会特別研究員であったため、産休・育休中は完全な無給になったことも紹介され、このポジションにおける社会保障の必要性も指摘された。最後に、女医の離婚率の高さは身近では証明できないので、安心して結婚をお勧めしたい（とくにサラリーマンがお勧め）、人それぞれにいつも何かしらの課題があるので、その時その時でベストを選ぶようにすればいい、出産後の復帰は焦らないでほしい旨のメッセージが送られた。

四人目の演者の人体病理学・病理診断学（大学院）の市村崇医師からは、これまでの経歴の紹介のあと、共働き医師夫婦としてキャリアを維持しつつ 3 児の子育てに携わってきた立場から話があった。「あれば助かるもの」として、祖父母力・地域力・体力の 3 つが挙げられ、地域力の例として、保育園の待機児童数は東京 23 区内であっても地域により大きな格差がある現状が紹介された。人生設計を考える際には、基礎系と臨床系、外科系と内科系さらにはそれぞれの科によって「時間的自由度」と「他領域への応用」が異なっているため、それぞれの利点を考慮して職場を選択すること、比較的自由度が高い大学院生時代を有効活用することの重要性が語られた。また、子育て中は夫婦どちらかの勤務形態の変更が必要であること、職場の雰囲気は子育て経験者数で変わること、上司が子育て経

験者であると働きやすいことなども述べられた。最後は、「『パパ大好き』の一言で、幸せに」「育児の幸せは、知った者勝ち！」という”イクメン”の醍醐味の言葉で締めくくられた。

五人目の演者である臨床研修医（初期）の鈴木歩医師からは、初期研修中に妊娠・出産・育児を経験した立場から話があった。本学医学部附属病院での初期研修中の妊娠・出産に際しては、欠勤が 90 日以内なら 2 年間で初期研修修了可能であり、有給休暇の取得日数と必修科に注意をする必要があること、最長 2 年の有期非常勤雇用であるため通常の育児休暇は取得できず無給の欠勤扱いになること、利点として、総合研修センターのバックアップがあることなどが紹介された。また、職場復帰にあたって心強かったこととして、東大病院職員専用の保育園（いちょう保育園）があること、育児支援室（女性休養室）があること、出産後の研修病院の変更に関して総合研修センターに相談を行うことができることが挙げられた。キャリアの初期に出産を経験することについては、仕事や勉強に費やす時間に制限が生じるデメリットもあるが、ある程度長く休んでも周囲への迷惑が少ないというメリットもあると感じており、今後も周囲の協力を得ながら仕事と子育てを両立していきたい旨の抱負が語られた。

六人目の演者である消化管外科の野村幸世准教授からは、「目指したい男女共同参画社会とそれに向けての各人の心構え」というタイトルで話があった。初めに、これまでの経歴、キャリアを確立してから結婚と 2 児の出産を経験したこと、現況についての紹介があった。その後、外科学の魅力として、直接的に治療に当たることができること、患者と深い信頼関係を築くことができること、専門とする臓器に関して研究を深めることができることが挙げられる一方で、長時間労働、緊急対応が必要である点や古典的上司の理解が得られにくい点など、女性医師のキャリア形成の諸問題も存在することが指摘された。米国留学で学んだこととして「男女問わず個々人の才能を最大限に発揮することで、社会の力となる」という考えが紹介された。最後に、若い人に向けて、後進と社会のために勤続し、理想の社会に向けて正しい方向に努力することが重要であること、そして、家庭や子供はかなり研究業績に近いものである故、心して築き上げていただきたい旨のメッセージが送られた。

全体討論では、学生から「子どもが病気になった時にはどうしているのか？」、「多忙な中、子育てで工夫していることは？」などの質問があり、演者自身の経験やそれに基づいたアドバイスが送られた。総合研修センターで研修医のサポートを担当した田村純人准教授からは、新しい臨床研修制度の導入により、初期研修の 2 年間は、総合研修センターのバックアップのもと、いろいろな制度を利用しながら、個々の研修医のキャリアやワークライフバランスを考慮した研修が提供できるようになったので、若い人には是非有効に活用していただきたい旨のコメントが寄せられた。小児外科の岩中督教授、細胞分子薬理学の飯野正光教授、神経生化学の尾藤晴彦教授からは、御自身や周辺の様々な事例の紹介やそれぞれの領域における男女共同参画の課題についてコメントをいただいた。

第一部の締めくくりに、門脇孝医学部附属病院長より中締めの挨拶をいただいた。門脇病院長は、自らの歩みを振り返りながら、父親が子育てに関与するということは、配偶者を助けるためだけではなく子供の成長にとっても大事なことだと感じておられることを述べられた。また、米国留学時代の研究室のボスが「研究室のアウトプットは、単に研究業績だけではない。そこに所属する構成員がどれだけ可能性を伸ばしてハッピーであるかどうかということが、もう一つの大事な評価軸である。」とおっしゃったことを紹介され、その後、教室主宰にあたっても、このことを大切に思い、努力されている旨を話された。最後に、東大病院ではこれまでも男女共同参画に精力的に取り組んできたが、今回の発表を聴く中で、どこにニーズがあるのかが見えてきたため、今後、この問題について、病院での取り組みを一層強めていきたい旨の話があった。

第二部では、20 名程度の学生と教員が入り混じり、活発な情報交換が行われた。

III. 参加者アンケートの集計結果

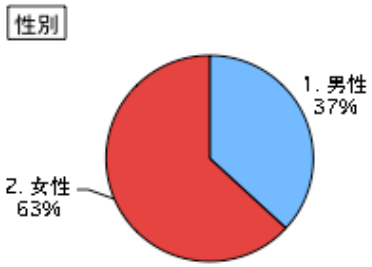
回収数：38 件（回収率 55.9%）

回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

＜基本情報＞

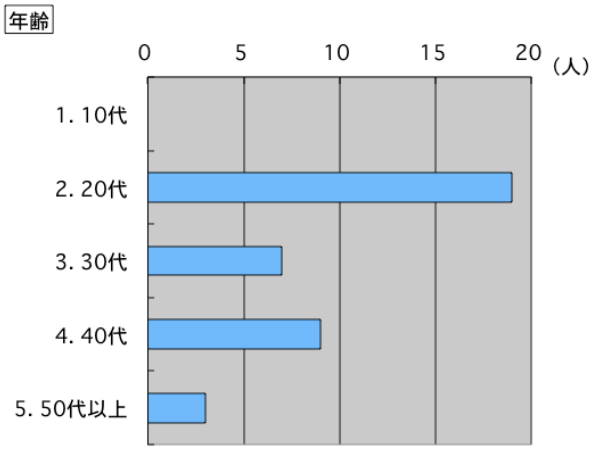
A１）性別

性別	n	(%)
1. 男性	14	37
2. 女性	24	63
無回答	0	0
計	38	



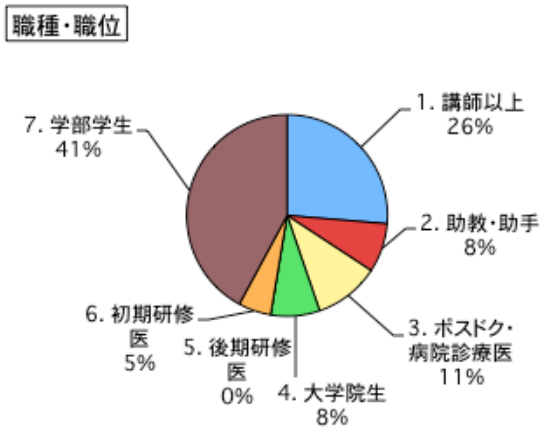
A２）年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	0	0
2. 20代	19	50
3. 30代	7	18
4. 40代	9	24
5. 50代以上	3	8
無回答	0	0
計	38	



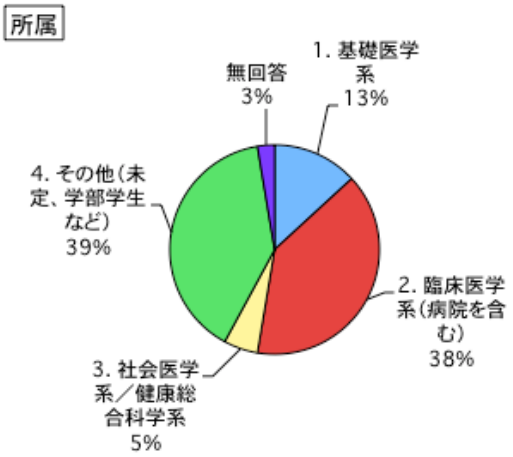
A３）職種・職位（特任・客員を含む）

職種・職位	n	(%)
1. 講師以上	10	26
2. 助教・助手	3	8
3. ポスドク・病院診療医	4	11
4. 大学院生	3	8
5. 後期研修医	0	0
6. 初期研修医	2	5
7. 学部学生	16	42
8. その他	0	0
無回答	0	0
計	38	



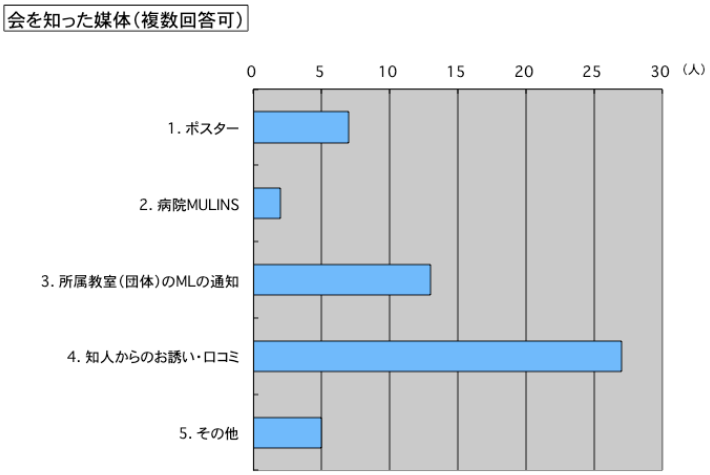
A４）所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	5	13
2. 臨床医学系（病院を含む）	15	39
3. 社会医学系／健康総合科学系	2	5
4. その他（未定、学部学生など）	15	39
無回答	1	3
計	38	



A５）この会を何でお知りになりましたか（複数回答可）

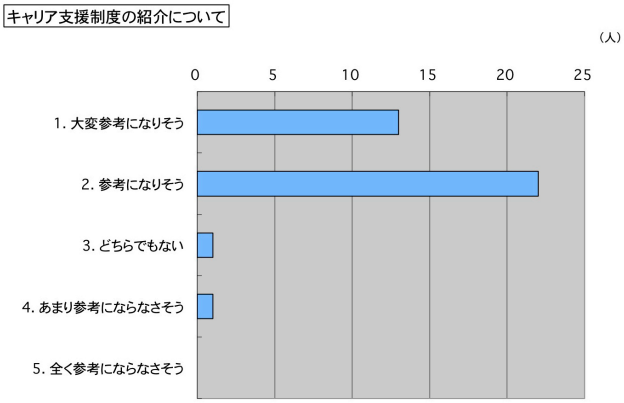
会を知った媒体（複数回答可）	n	(%)
1. ポスター	7	13
2. 病院MULINS	2	4
3. 所属教室（団体）のMLの通知	13	24
4. 知人からのお誘い・口コミ	27	50
5. その他	5	9
無回答	0	0
計	54	



＜今回の企画の感想について＞

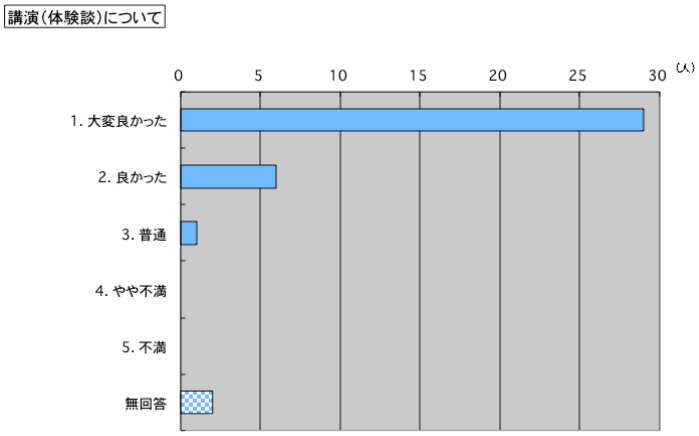
B１）キャリア支援制度の紹介（配布資料）について

キャリア支援制度の紹介（配布資料）	n	(%)
1. 大変参考になりそう	13	34
2. 参考になりそう	22	58
3. どちらでもない	1	3
4. あまり参考にならなさそう	1	3
5. 全く参考にならなさそう	0	0
無回答	1	3
計	38	



Ｂ２）講演（体験談）について

講演(体験談)	n	(%)
1. 大変良かった	29	76
2. 良かった	6	16
3. 普通	1	3
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
無回答	2	5
計	38	



【自由回答（講演について、とくに良かった内容や、他に聞きたかった内容)**】**

とくに良かった内容：

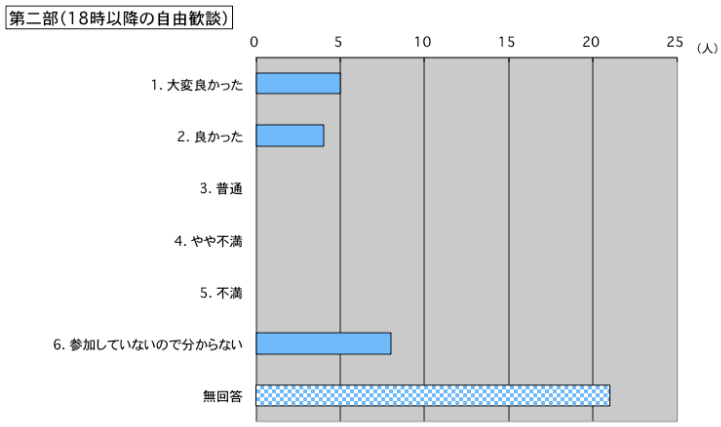
- 本人の意欲が大切だということがよく分かりました。病院としての取り組みも聞くことができてよかったです。
- 子育てに限らず、私生活の充実と責任ある仕事が相乗的に高め合う社会・職場環境・意識を実現できるよう、個人としても努力していきたいです。
- 今回も様々な分野、様々な立場の先生方から、貴重なお話を伺えたと思います。
- 皆様とても印象的で魅力的な発表で、参加させて頂いてよかったです。具体的な参考例がわかり、とてもいい内容だったと思います。去年より brush up され、男女参画の意識が普通になっていくような気がします。
- 最近の先生方の仕事と家庭との両立の実際を伺い、大変努力されている事が分かりました。
- 現実的・具体的なお話を拝聴でき、将来的なことを考える材料・きっかけとなったと思います。
- 今までは医師の仕事の面しか分かっていませんでしたが、子育てなどのプライベートな面についてのお話を聞けたのは初めてであり、大変新鮮でした。
- 女性が子育てと仕事を両立できるだけでなく、男性も子育てに関われるような制度になっていってほしいと感じました。
- ライフ側を中心とした話を聞けたのが貴重だった。
- 本音が聞けてよかった。
- 進行のテンポが良かった。
- お一人目の吉川先生のお話には涙がでました。
- 海外でのワークシェアリングでの考え方、文化形成の必要性について感銘をうけました。
- 高名な野村先生でさえも不完全燃焼感を抱えておられたり、どなたも苦労や悩みを抱えながらポジティブに活躍されていて、励まされました。
- 色々な時期に出産した女性のお話が聞けてよかった。
- 質疑応答よりの参加となりました。先生方が具体的に本心を答えてくださっていて、胸に響きました。

今後の課題、他に聞きたかった内容：

- 多くは子育てと仕事の両立を問題にされていましたが、例えば伴侶との勤務地が離れるような経験などについての問題もあるのではないかと思います。
- 途中からの参加だったので、非常に参考になる話だったが充分に聞けなかったのが残念だった。先生方の講演を資料として頂けると、大変ありがたいと思った。学内アクセス制限でもよいので、PowerPoint ファイルを up していただけませんでしょうか。
- 最後の方に来たので、最初の方の話が全く聞けませんでした。それなりに需要があるトピックだと思うので、次回は Ustream 配信等も視野に入れて頂ければ幸いです。
- 保育園についての情報収集法等（を聞きたかった）
- 臨床医・研究医の仕事のスタイルの違いについて（聞きたかった）

B３）第二部（18 時以降の自由歓談）について

第二部(18時以降の自由歓談)	n	(%)
1. 大変良かった	5	13
2. 良かった	4	11
3. 普通	0	0
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
6. 参加していないので分からない	8	21
無回答	21	55
計	38	



【そのように回答した理由（自由回答）】

■ 「1. 大変良かった」と回答した方

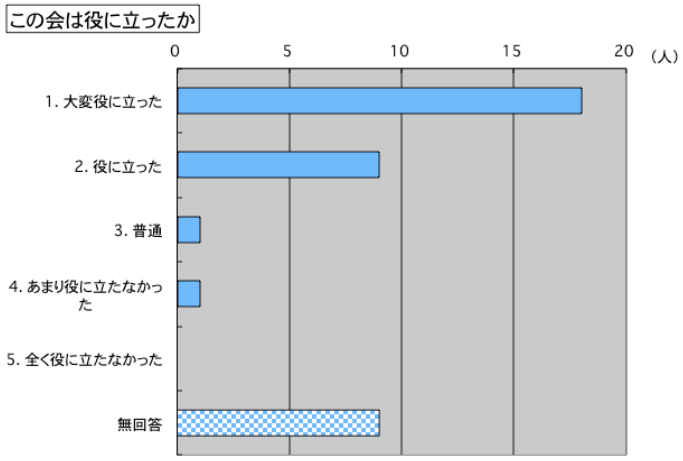
- 先生と密にお話できて感動しました。
- 委員長をはじめとする男女共同参画委員会の委員や教育に熱心な教員が参加し、後輩医師や学部学生との貴重な交流の場になっていた。

■「2. 良かった」と回答した方

- 開始のタイミングが難しかったです。

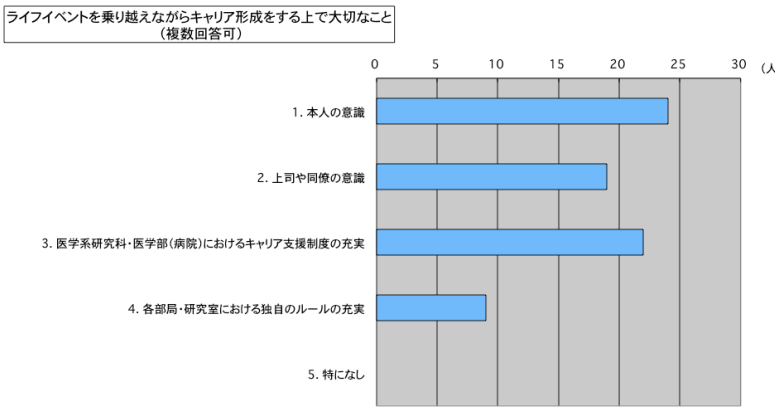
B４）この会は役に立ちましたか

この会は役に立ったか	n	(%)
1. 大変役に立った	18	47
2. 役に立った	9	24
3. 普通	1	3
4. あまり役に立たなかった	1	3
5. 全く役に立たなかった	0	0
無回答	9	24
計	38	



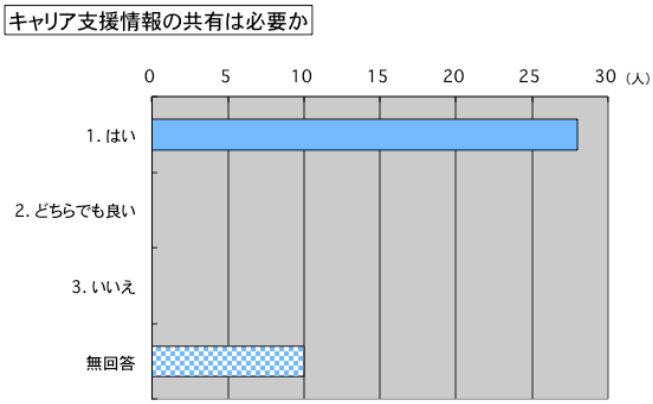
B５）この会に参加して、ライフイベントを乗り越えながらキャリアを形成していくためには、何が大切だとお感じになりましたか。（複数回答可）

ライフイベントを乗り越えながら キャリア形成をする上で大切なこと （複数回答可）	n	(%)
1. 本人の意識	24	32
2. 上司や同僚の意識	19	26
3. 医学系研究科・医学部（病院）における キャリア支援制度の充実	22	30
4. 各部局・研究室における独自の ルールの充実	9	12
5. 特になし	0	0
計	74	



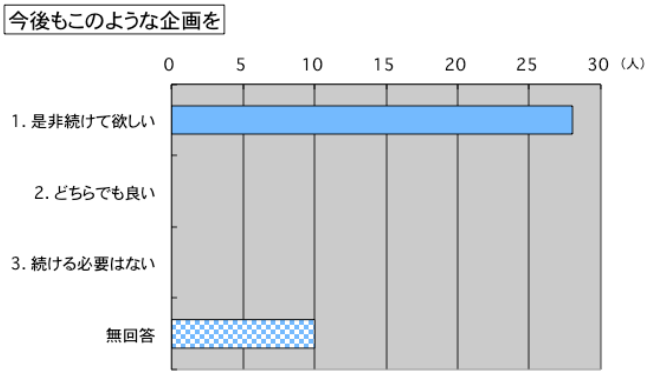
B６）各部局・研究室におけるキャリア支援体制について、情報の共有が出来た方が良いと思いますか。

キャリア支援情報の共有は必要か	n	(%)
1. はい	28	74
2. どちらでも良い	0	0
3. いいえ	0	0
無回答	10	26
計	38	



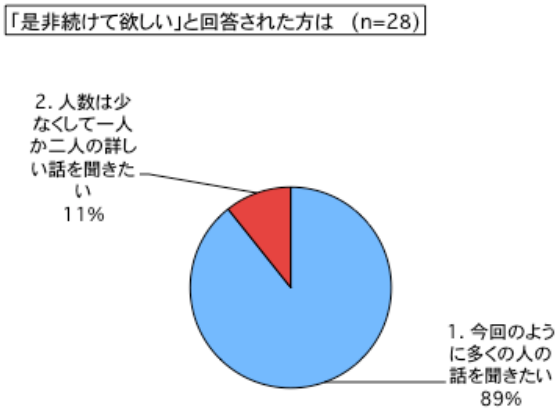
B７）今後もこのような企画を続けて欲しいと思われますか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	28	74
2. どちらでも良い	0	0
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	10	26
計	38	



B８）前問で１と回答された方は、次のどちらをご希望されますか。(n=28)

前問で1と回答された方は	n	(%)
1. 今回のように多くの人の話を聞きたい	25	89
2. 人数は少なくして一人か二人の詳しい話を聞きたい	3	11
計	28	



B９）B７）で１と回答された方へ。その他、開催時期、内容などに御要望があればご自由にお書き下さい。

- この時期の開催
- お一人当たりの時間は現在ぐらいがよい。多くの演者の方からバラエティに富むお話を伺えるのがよい。
- （演者数は）4～5 人がいいか？
- ご夫婦でどう分担・両立されているか（を聞きたい）
- 数人のグループ制で座談会形式にすると、より具体的な質問ができていいと思います。

C１）今後、男女共同参画委員会で行って欲しい活動やご意見ご希望がありましたらご記入下さい。

- ありがとうございました！
- 大変有意義な会だったと思います。
- 去年も参加して大変エネルギーを頂いて今年も心待ちにしていました。今年３月に出産し、低体重だったため NICU に入り、現在３ヶ月で健康です。今後、保育園のこと、育児と研究両立に向けて頑張りますので、今後もよろしくお願いします。（大学院３年）
- ランチタイムの講演会の開催（臨床研究者育成プログラムで行われているようなこと）